

山の芋を活かした創作料理

●第5回山の芋料理コンクール



▲37点の作品から各賞を選んだ第5回山の芋コンクール

第5回山の芋料理コンクール（J A 鷹巣町主催）が2月24日、中央公民館で開かれ、食味や盛り付けなどに工夫を凝らした山の芋料理が数多く出品され、優れた作品を審査しました。

市民ら30人が参加。料理部門には22点、加工部門には15点の出品があり、会場には、朝早くから調理され、食味と盛り付けにも配慮した彩り豊かな料理が各テーブルに並べられました。

今回は、秋田大学北秋田分校の取り組みのひとつとして、学生チームと韓国からの留学生も参加しました。

表彰式で、佐藤清孝・代表理事組合長は「作品は、甲乙つけがたい料理ばかり。今後も山の芋の普及、拡大に努めたい」などとあいさつしました。

ふるさとの文化財を学ぶ

●合川公民館「ろばた講座」



▲市内の文化財について学んだ「ろばた講座」

第3回「ろばた講座」が3月11日、合川農村環境改善センターで行われ、市民ら約50人が市内の文化財について理解を深めました。

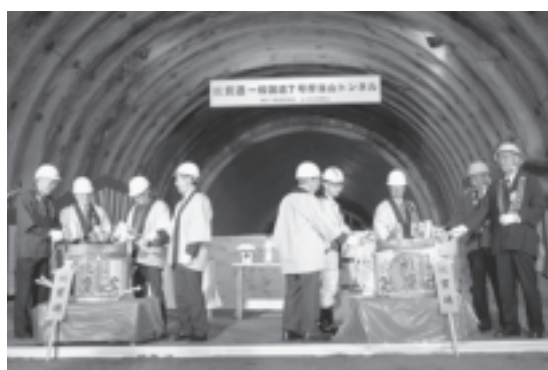
今回の講師は、市の広報紙で「ふるさとの文化財」を紹介している照内捷二さん。「ふるさとの文化財の中から」と題し、文化財の歴史や保存状況などを紹介しました。

照内さんは「私は、研究者でも郷土史家でも歴史学者でもないが、歴史はおもしろい」とし、市内の文化財の中から魚形文刻石（阿仁）、白坂遺跡出土品（森吉）、延慶の碑（合川）、天保飢饉見聞実録（鷹巣）などを紹介しました。

参加者らは、興味深い話に熱心にメモを取りながら、聞き入っていました。

摩当山トンネルが貫通

●国道7号摩当山トンネル工事貫通式



▲関係者が鏡開きで貫通を祝い、今後の工事の安全と早期完成を願う

鷹巣大館道路の摩当山トンネルの貫通式が2月21日、トンネル坑内で行われ、関係者が貫通を祝うとともに今後の工事の安全と早期開通を願いました。

式典には関係者ら約150人が出席。はじめに貫通発破が行われ、貫通を確認し、貫通点を清めたあと吉永宙司・能代河川国道事務所長や津谷市長らによる通り初めの儀が行われました。

吉永所長は「最大延長となる摩当山トンネルの貫通により、工事にさらに弾みがつく。残りの工事を早期に完成させ、県北地域に必要な道路事業の整備に努めたい」などと述べました。

このあと鏡開きが行われ、関係者らが貫通を祝って乾杯し、今後の工事の安全と早期完成を願いました。

抹茶とお菓子を楽しんだ桃の節句

●たかのす幼稚園「ひな祭りお茶会」



▲「ひな祭りお茶会」でお茶とお菓子を楽しむ園児たち

市立たかのす幼稚園（三澤仁園長、園児14人）で「ひな祭りお茶会」が3月3日開かれ、園児たちがお茶をいただき、ひな祭りを楽しみました。

お茶会は「表千家小坂キヌエ社中」の協力を得て開かれており、今年で13回目。小坂さんは「今年も健やかに成長しますようにおひな様にお祈りしましょう」などとあいさつ。

お茶会では、作法を説明しながら、子どもたち一人ひとりに和菓子と釜の湯から点てた抹茶を振舞いました。

子どもたちは、お茶とお菓子をいただき「お茶の飲み方を教えてくれてありがとう。おいしかったです」と元気の声でお礼。ひな祭りの歌を披露し、感謝の気持ちを伝えました。

森吉山の魅力を考える

●森吉山国有林公開フォーラム



▲森吉山の魅力を探った森吉山国有林公開フォーラム

森吉山国有林公開フォーラム（東北森林管理局米代東部森林管理署上小阿仁支署）が2月19日、阿仁ふるさと文化センターで開催され、参加者が森吉山の魅力や森林レクリエーション利用について意見を交換しました。

開会にあたり、嶋田理・支署長は「いろんな知恵やアイデアを出していただき、今後の森吉山の森林レクリエーション利用、地域の振興につなげていきたい」などとあいさつ。

フォーラムでは、藤原優太郎・あきた山の学校代表が「森吉山の魅力再発見」と題して基調講演を行ったほか、村田君子・特定非営利法人冒険の鍵クーン理事長らが森吉山での取組事例などを紹介しました。

澤藤匠さんが優秀賞受賞

●秋田県ウィンターフォーラム若手農業者の意見発表部門



▲優秀賞を報告した、澤藤匠さん（左）と近藤祐太さん

秋田県ウィンターフォーラムの意見発表部門で優秀賞を受賞した澤藤匠さん（24歳・美栄）が3月2日、森吉庁舎を訪れ、津谷憲司産業部長に受賞を報告しました。

報告に訪れたのは澤藤さんと、同じく農業を営んでいる友人の近藤裕太さん。

澤藤さんは「我が家の新規作物『モモ』にかける新たな挑戦」と題し、自身が取り組んできたモモの栽培や、販路開拓に向けた熱い思いを発表したのが評価され、優秀賞を受賞しました。

津谷部長は「意欲的に営農されている若い方が、素晴らしい賞を受けることは、農業の担い手確保を進めるうえで、大きな励みとなる。更なる活躍を期待します」などと受賞を称えました。